

生瀬富士と黒尾谷岳 山行報告

【期 日】 2018年12月22日(土)～23日(日)

【山 域】 阿武隈山地 生瀬富士～袋田の滝
那須連山 黒尾谷岳

【参加者】 CL 柘植、SL 齊藤一、 藺田、磯部、加藤(報告)

【報 告】

12/22(土) 町営駐車場 940—生瀬富士 408m—立神山 420m— 袋田の滝—駐車場 13:50 (晴れ)

駐車場から北にそびえる屏風状の岸壁の最高点が立神山で、左端の岩峰が生瀬富士である。危険箇所には鎖やロープが設置してあり、短いが妙義山くらいの難しさはある。

駐車場(無料)からすぐ住宅地内の登山口へ(道標なし)。ナンテンの生垣の赤い実を愛でながら落葉積もる登山道へ。杉やシダの暗い林を抜けると展望が開け、日が差すと暑い。足場の悪い鎖場を慎重に登ると狭い生瀬富士の山頂である。周囲は絶壁で360度見渡せる。大休止後、固定ロープと浮いた木の根を掴んで急斜面を降り、登り返して立神山へ。袋田の滝の道標に従って進むと袋田の滝を上から見下ろせる地点に到着した。断崖絶壁(柵なし)から覗き込むと水量の少ない袋田の滝が望まれ、滝の上部は民家、道路、畑が広がる普通の山村になっていた。

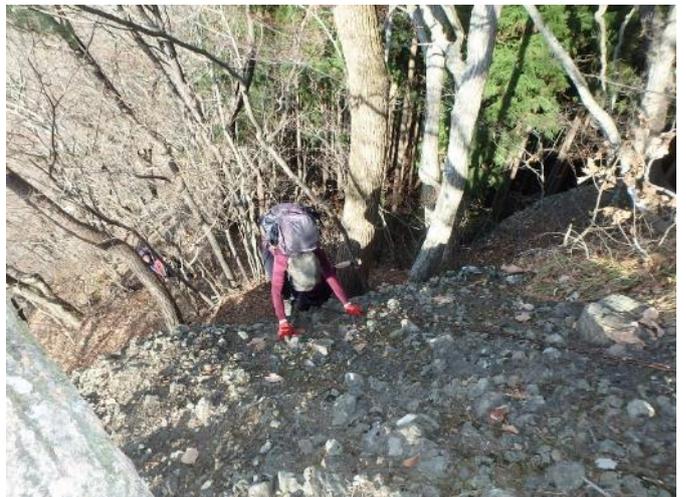
穏やかな流れの関川が月居山と立神山の間でゴルジュとなり、袋田の滝に落ちているのがよく見えた。ここで月居山を正面に仰ぎながら藺田さんが用意した米麴の甘酒を頂いた。さらに下り、滝の上部の水が流れる岩畳の河原を徒渉し、この河原に建つ民家の脇から月居山登山道を経由し、袋田の滝を横から見物し、土産物屋や鮎の塩焼きの誘惑に負けないように駐車場に戻った。



生瀬富士の登山標識



正面の岩峰が生瀬富士、右が立神山



生瀬富士の頂稜部は結構な岩場



生瀬富士山頂での憩い

山頂直下のクサリ場を攀じ登る



下山も山頂直下は壁といっぴよい状況



展望台から見下ろす袋田の滝



袋田の滝上部の河床を渡渉する



遊歩道から間近に見下ろす袋田の滝の始まり部分



観光客目線で見上げる袋田の滝の一段目

12/23 (日) 平和郷モミの木台林道終点 8:45—黒尾谷岳 1589m 11:00—駐車地点 12:20 (曇り)

黒尾谷岳は那須連山の南端にあり南月山の南側に位置している。山行中は全く展望がなかったが、昨日の夏山のような暖かさと違って、初心者向け冬山を満喫できた。

カラマツ林の駐車スペースは標高 1050m、うっすらと雪が残っている。最初は落ち葉を踏みながら整備さ

れた登山道に行く。山頂まで1kmの標識を過ぎると積雪量が増え、爪の形が付いたクマの足跡を見つけた。山頂まであと500mの標識付近から完全に冬山となり、ひざ位の積雪だが、吹きだまりは1m位で、ワカンが欲しいと思った所もある。交代でラッセルしながら山頂に着いた。樹林に囲まれ展望はない。菌田さんの酒粕の甘酒を頂き、寒いのですぐに下山を開始した。下りはトレースに沿ってどんどん降りる。途中で雨、雪にも降られず、無事下山した。

下山後のお楽しみは「なすべん」。那須町の産物を使った9種類の料理が丸い木のお盆に趣ある器に盛り付けられている。数件のレストランで提供されているが、今回はホテル・エピナールの高級な雰囲気の中で味わうことができた。

記録 :

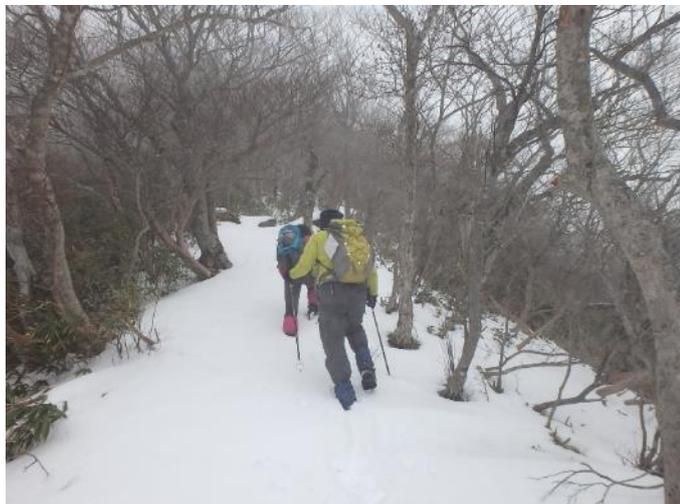
加藤洋子



中間部は傾斜が急になるとともに積雪も増えてくる



上部は膝から部分的に股下くらいのラッセルとなる



上部は膝から部分的には股下までのラッセル



頑張っって辿り着いた黒尾谷岳の山頂

黒尾谷岳
1589m

南月山
1638m 1776m

那須岳(茶臼岳)
1915m

朝日岳
1896m



無雪期に那須高原から見上げる那須連山（NETからの借用写真） 左端が黒尾谷山